

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : セント・メアリーズ大学

留学期間 : 平成 27 年 8 月 29 日 ~ 平成 27 年 12 月 20 日

自分自身の成長に繋がった、充実した4ヶ月間の留学だった。午前中は英語のクラスで中国、韓国を初めとするアジアの生徒そしてサウジアラビアやシリアなどの中東の生徒とともに学んだ。日本人に比べて積極的に発言したり、質問したりする姿に非常に刺激を受けた。午後からは大学の正規科目の授業のジェンダースタディを勉強した。80人以上の生徒がいて、ほとんどの生徒が英語圏の国から来ていて、ほとんどの人の話す速度が早く授業についていけないか不安に感じることもあった。初めは大学のテストをどうやって勉強していいかわからなかったが、カナダ人の友達と一緒に勉強してくれてわからないことがあるとき、教えてくれて心強かった。大人数のクラスで発言することに抵抗があったけれども、徐々に自分の考えを言ってみようと思い、言えるようになった。グループでのプレゼンテーションはお互い時間が空いているときが違い中々練習したり意見交換したりすることができず、大変だったが、メールなどでやり取りして完成し、発表することができた。この経験を通して、柔軟に物事に対応することの大切さに気づかされた。

またカナダでの授業で学んだことは、カナダやアジア系のクラスメイトが堂々と発言している姿を見て、どの意見が優れているかなどなく、自分の意見を言ってクラスに貢献することで、ディスカッションをより良いものにでき、共に学べることである。発言することで生じる意見の相違を恐れているよりも他の人が持っている見解を知り、そこから新しいことを学べる楽しさのほうが大きいことを経験した。これからもそれを大事にしていきたいと考えている。

これから留学する人には先生やクラスメイトに質問したりわからないときはわからないと素直に言ったりすることを恐れないことをお勧めする。なぜならば周囲の人は私たちがわからないと言わないとわかっているのかどうかかわからないから助けられないからである。確かに初めは誰かに聞くことはとても勇気のいることだと思ったが、思い切って授業で聞き逃したことを聞くと親切に教えてくれた。素直に聞くことの大切さを知った。周りの人に本当に恵まれていて勉強面以外でも、悩み事を聞いてくれる、アドバイスしてくれる友達がいたから挑戦的なことがあっても乗り越えることができた。多くの人に支えられて成長できた4ヶ月間だった。

4ヶ月間のカナダ留学はとても充実した実りあるものになった。初めは自分の英語が合っているか間違っているか不安に感じることもあり、人前で、英語で話すことに自信がなかった。しかしながら英語のクラスや大学の正規科目の授業でグループそして個人でプレゼンテーションをしたり、ディベートやディスカッションをしたりするうちに間違えることを恐れなくなり、みんなで意見をシェアしたり共に学ぶことの楽しさを知った。また、むしろ間違えることや自分自身も発言することが新しい学びに繋がることに気づいた。この体験を通して徐々に自信を持って人前で話せるようになった。特に正規科目においては困ったときにはいつも助けてくれる友達がいたので、とても心強かった。

ホームステイ先のホストファミリーが、何度か近所のスーパーや湖などに連れて行ってくれたりして、現地の

生活を体験することができた。けれどもホストファミリーとは文化、生活習慣や考え方の違いが大きくあったのに加え言葉の壁があり、戸惑うことも多々あった。私が思っていることとは違うように受けとられてしまうこともあった。そのときは英語でなんと言ったら良いかわからず困っていることを素直に伝え、どう言ったらいいかわからないからという理由で自分の思いを伝えることをあきらめるのではなく、何度も別の言い方で伝えることをトライするなどして、自分なりに良い関係を築けるように努力した。そのことを通して日本語にはあって英語にはない表現があり、私とは異なる考え方を持っていたため、ホストファミリーに私が言いたいことが通じないときもあり、私の英語力が必ずしも誤解が生じる原因になっているわけではないことに気づいた。言葉の壁以外にも、お互いに誤解が生じることがあり、悩んだこともたくさんあった。例えば毎週水曜日はホストファミリーと一緒に過ごすようにしたり、できる限り毎日晚ご飯を一緒に食べるようにしたりしていたのですが、もう少し一緒に過ごす時間を作って欲しいと言われたり、ホストファミリーの子どもとずっと遊んでほしいと言われたりすることもあった。大学の課題がたくさんある中、学業をこなし、友達と過ごす時間も大切にしながらやっていたので、ときにはどうしたらよいかかわからないこともあった。そんなとき私の話を聞いてくれたり、相談に乗ってくれたり、励ましてくれたりする友達の支えがあったからこそ最後まで留学生活を楽しんで乗り越えることができた。

大学のウエルカムパーティやクリスチャンの集いでカナダ人や他国からの友達ができ、大学のクリスチャンのグループでハイキング、キャンプ、感謝祭やクリスマスなどのパーティを一緒にお祝いしたりした。その中の友達とよく一緒にご飯を食べに行ったり、ハリファックス周辺を案内してもらったりした。たくさんの人との出会いを通して様々な楽しい経験ができた。またその中の何人かの友達が日本の歴史や有名な場所について質問してくれて、英語で説明する難しさと自分の日本のことに対する知識不足を改めて痛感した。

カナダに行くまでは人に道を尋ねる勇気がなかったが、一人で移動することも多く、バスが遅れることが日常茶飯事でどのくらい遅れているか、目的地までどうやって行けばよいかなどを聞かなければならない場面がたくさんあり、人に道を尋ねる度胸がついた。

これから留学する人には留学する前に明確な目標を設定することをおすすめする。私自身、積極的に現地の大学の友達を作り、できる限り英語で話し英語力を上げるという目標を立てた。もちろんホームシックになりそうなときは日本人の友達と話すときもあった。でも大事なことはバランスで全く話さないのもよくないと思うが、常に日本人とばかり固まるのはもったいないと思い、カナダ人や他のアジアの国から来た学生ともご飯を食べに行ったり、大学で行われたパーティなどに参加したりして積極的に交流を図った。そのおかげで考え方や価値観の違いに触れることができ、自分自身の視野が広がった。お互いの違いを比べるよりも違いを知りその背景に何があるかを知り、違いを尊重理解することが異文化理解の一步になるのではないかと思った。

この目標があったからこそ、現地の大学にたくさんの日本人がいたが、最後まで周りに流されることなく積極的に英語で話すことを頑張れたと思う。また目標を持つことでその目標を実現するために何をしないといけないかということが見えてくるので、留学生活をより意味のあるものにできると思う。

留学中、町中でトヨタ、スバルなどの日本の自動車がたくさん走っていて、現地の友達に日本の文房具やお菓子をあげたとき、使いやすいやおいしいと言って喜んでくれた姿を見て、日本のすばらしい物をもっと世界中の人に知ってもらいたいと思った。今回の留学を通して、

将来、日本の食品や生活用品などの会社で海外に日本の物を広めることの手助けができる仕事に就きたいと強く思うようになった。

楽しいことも大変なこともたくさんあり、多くの友達や周囲の人とお互いを高め合えた、自分自身の成長に欠かせない4ヶ月間の留学になった。